

やいみち

…被災地支援情報…



第61号 発行日 99.8.12

被災地NGO協働センター

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町7-2-6

TEL 078-685-0068 / FAX 078-685-0071

Internet <http://www.pure.co.jp/ngo/>

E-mail ngo@pure.co.jp

口座番号 01130-6-68566 (郵便振替)

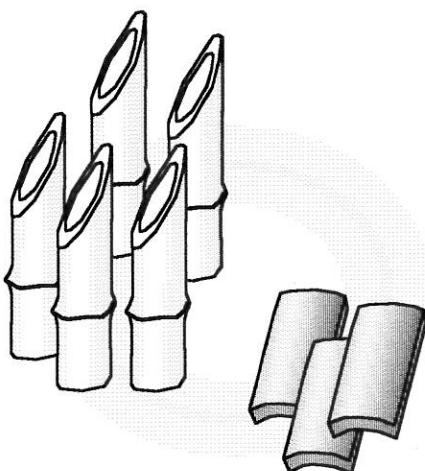
残暑お見舞い申し上げます。今年もまた、甲子園の歓声の聞こえる季節がやってきました。大雨続きだった7月の後はうだるような暑さの日々が続いていますが、みなさまお体大切にお過ごし下さい。

被災地における市民による仕事づくり

ただいま「竹炭」作りに取り組んでます

生きがい

私たちが生きがい・仕事づくりに取り組むきっかけの一つは、仮設住宅での孤独死でした。行政も様々な施策を打ち出し、ボランティアも手分けをして巡回する。朝から晩まで何人の人が来るくらい手厚い訪問をしているのに、それでも孤独死はなくならない。どうしたらよいかと考えているうちに、外的な要因でなくなるものではなく、個々人の内面的なもの、いわゆる生きがいみたいなものを持つことに尽きたのではないか、と考えたのです。



被災地の最大の課題の一つは、雇用の確保です。震災で職を失った人の働き先は、その後の不況の影響もあり、なかなか回復の兆しが見られません。復興事業が一段落したことで建築関係の仕事も減り、兵庫県の失業率は全国平均を上回る厳しい状態が続いている。特に中高年層の仕事の確保は大きなテーマです。

雇用

今年1月17日に行われた「1.17 KOBEに灯りを」では、1万数千本の竹筒にロウソクを灯しました。

このとき使った竹筒にヒントを得て、里山保全などを織り込んだ竹炭作りの事業が動き出しました。兵庫県が今年度打ち出したコミュニティビジネス支援の対象にも認定され、少しづつ準備が整っています。



コミュニティ ビジネス

竹炭作りは、被災者団体の「神戸・市民交流会」など、いくつかのボランティア団体/NGOなどが集まって進めています。神戸市の施設の敷地に炭焼き窯をつくり、試行錯誤を繰り返しながら、なんとか炭らしい炭が出来るようになりました。この夏からは被災地に研修にきた学生などのプログラムにも取り入れて、ボランティアと共同で炭焼きの体験をしてもらっています。

竹炭は燃料としてだけでなく、脱臭や空気・水の清浄などにも効果があると言われており、商品化のめどがつけば、炭焼きや包装、発送などを含めて新たな仕事として出発する予定です。

私たちは大きなことはできません。

ただ小さな愛をもってやることはできます。(マザー・テレサの言葉より)

…被災地支援情報…

しみん基金・KOBE

設立総会開催、NPO法人申請へ



昨年来設立に向けての準備を進めていた「しみん基金・KOBE」ですが、この度5月13日に記者発表、そして7月12日に設立総会を行い、いよいよ発足となりました。

市民活動の果たす役割は阪神・淡路大震災を契機に広く社会に認められるようになりました。ところが震災から4年半経ったいま、様々な分野で活躍した市民活動は財政面での困難にぶつかっています。この市民活動を企業も含めた市民一人ひとりの手で支え、育てて行くしくみが「しみん基金・KOBE」なのです。

「市民一人一人が支え、育てる」というのは、言い換えれば寄付をする側、つまり市民自身の意識が変わり、育っていくことでもあります。

これまで行政だけに任せていた社会サービスに新たに市民活動の参画という選択肢が認められつつあります。しかし市民活動の財政基盤はまだまだ不安定な状態です。

市民活動という公益の担い手への支援を、行政だけに任せないのでなく、市民自身が担っていく。自分たちの市民活動を自分たちが支えて行くわけです。

震災復興に取り組む市民団体や神戸青年会議所、学識経験者らが構想を温め、7月12日に設立総会を行いました。秋には特別非営利活動法人として認証される予定です(理事長=黒田裕子・阪神高齢者・障害者支援ネットワーク副代表)。年に2回予定している助成は大学教授や弁護士らで作る審査会(委員長=広原盛明・元京都府立大学長)で審査(一部公開)されます。

役員や審査員も多彩な顔ぶれですが、事務所も、神戸市

が基金への支援として、遊休施設を提供したものです。

市民と経済人や学識経験者、そして行政が共に被災地発の新しい取り組みを進めていく。今回の基金の設立は震災4年半の中で育まれた新しい"しくみ"と言えます。

被災地復興を地道に支えている市民活動を、あなたに寄付によって支えていきませんか?

参加費や売上の一部を寄付して下さる協賛イベントや、募金箱を置いて下さる店舗なども募集しています。

詳しくは「しみん基金・KOBE」事務局までお問い合わせ下さい。

「しみん基金・KOBE」事務局

〒651-0095 神戸市中央区旭通1-1-1-203

TEL 078-230-9774 FAX 078-230-9786

—神戸—

市民活動を市民自らの手で支えよう

「しみん基金・KOBE」設立



「神戸市民社会づくりの発信地に」とあいさつする
黒田理事長=神戸市中央区、フェニックスプラザ

NPO法人格の取得を申請

阪神・淡路大震災の被災地を中心としたNPO(非営利組織)やボランティアの活動を、市民や企業からの寄付で支援する助成団体「しみん基金・KOBE(こうべ)」(理事長=黒田裕子・阪神高齢者・障害者支援ネットワーク副代表)が13日、神戸市中央区のフェニックスプラザで設立総会を開いた。会場内にも兵庫県にNPO法人格の取得を申請し、十月には最初の助成を予定している。

同基金は震災後活動になった市民活動を市民自らの力で支える草の根の助成団体。全国的にも初の取り組みで、被災地のNPOと組んで、神戸青年会議所などが中心となりて発足した。現在、三月末で終了した「阪神・淡路ミユニティ基金」などの団体、個人から、三千四百万円の寄付が集まっている。

助成対象は、開拓的、個人的目的の活動で個人団体を問わない。十件の助成を予定し、限度額は一件百万円。大学教授や弁護士ら六人でつくられた審査会(委員長=広原盛明・元京都府立大学長)で審査(一部公開)されます。

度は五十件の助成を目指します。

明・元京都府立大学長で公開審査する。二〇〇〇年のほか、募金箱を設置して

総会では、金融機関の関係者や大学教授ら十四人の理事を選出。高村勲・コーエーベンガル管理事長顧問、新井幸次郎・神戸大名督教院顧問などを決めた。

度は五十件の助成を目指します。

明・元京都府立大学長で公開審査する。二〇〇〇年のほか、募金箱を設置して

…被災地支援情報…

《仮設は今。。。》

長田区編

阪神・淡路大震災の仮設住宅は、3月末で災害救助法に基づく使用期限が終了したのち、先の6月末で「移行措置期間」も終了しました。8月1日現在の入居は459世帯、行き先の決まっていない世帯は74世帯となり、多くの仮設ではプレハブの撤去作業が本格化しています。

いつものように仮設を訪ねると、ポツンと一人、Mさんが外の長イスに座っておられました。今年90歳、少し離れたところから手を振ると、しばらく目を細めてこちらの様子を伺っていたかと思うと、意外なほど勢いよく手を振り返しておられました。

お話を伺うと、毎日部屋に上がり込むように親しくしていたBさんが最近引っ越しされたため、寂しくて退屈で死にそうだとのこと。Bさんはあちこち慢性の持病があり、特に足腰が悪く外出もできないため、Mさんが毎日のように訪ねておられたのでした。

“長寿友の会”を作り、最後まで仮設に残って24時間体制でお年寄りの世話をされている長尾さんと共に、ひとしきりMさんとお話ししたあと早速Bさんを訪ねることにしました。

Bさんは、西代仮設から比較的近い(といってもMさんの足ではムリですが)長田町の復興住宅に移っておられました。

呼び鈴を押しあな前を呼び続けると、わずかに「ハイ」と返事が返ってきました。が、なかなか出て来られません。「足悪いから時間かかるやろ」長尾さんの一言で待つこと数分、ゆっくり鉄の扉が開きました。Bさんは頭半分、包帯をしておられました。



事情を伺うと、仮設の時より流し台が高く、端を持って立ち上がりようとした時、急に目がくらんで仰向けに倒れた拍子に、運悪く歩行器の足の角に頭をぶつけたとのこと。

薄れる意識の中、何とか受話器までたどり着いたものの、仮設でのダイヤル式でなくプッシュボタン、かすむ目でやっとの思いで119番したもの、引っ越ししたばかりで住所が分からない。何とか遠方の娘さんに連絡が取れ、やっと救急車に来てもらったそうです。11針縫っておられました。

なぜ“仮設全廃”なのかわかりませんが、わたしたちは、人の絆をつなぐことが“復興”だと考えています。

もちろん住まいが改善されるにこしたことはありません。しかし現実は、仮設においても移転後は、本来必要とされているケアが十分になされていません。むしろ移転してボランティアの手が届きにくくなる分、不十分にさえなっています。

孤立化と“孤独死”を防ぐため、移転先での近隣のコミュニティ作りと、より緊密なケアのためのボランティアのネットワーク化が急がれます。

(コリアボランティア協会 鄭炳熏)

復興公営住宅 3割超が高齢者

都市部の高齢化社会を直撃した阪神・淡路大震災から、17日で4年半を迎える。仮設住宅の入居者は531世帯とピーク時の1%にまで減少し、解消に向か最終局面に入った。一方で、被災者が移り住んだ災害復興公営住宅では高齢化率が30%を超え、65歳以上の単身世帯は5,600世帯を数える。高齢者の生活再建をどう支えていくのか。被災地の模索が続く。

16日現在の仮設住宅入居者は、神戸436▽西宮90▽明石3▽姫路1▽加古川1世帯。行き先にめどが立っていないのは、約100世帯となっている。

住宅復興は着実に進み、兵庫県のまとめによると、12万5千戸の計画に対し、供給は16万3,700戸になる見込み。

このうち災害復興公営住宅は4万戸が完成。3万8千世帯が入居した。だが、仮設住宅で問題となった高齢者の割合の多さが、そのまま災害復興公営住宅にも引き継がれた。

震災
4年半
生活再建どう支援?

65歳以上の高齢者の割合は県営住宅で34%、神戸市営で32%に上る。

県などは、高齢者を中心に知識や技能習得などの支援策を展開。4千人が受講し、うち800人がボランティアとなって活動を始めている。自治会は7割の団地で結成されたが、担い手が少ないという悩みもある。二度にわたって暮らしの環境が変わり、孤独感で引きこもる高齢者もいて、新たなコミュニティづくりが課題だ。

一方、長引く不景気で、被災地経済は低迷。ケミカルシューズ、酒造、粘土がわらなどの地場産業も被災前の7~6割の水準に落ち込んだまま。神戸港の輸出入総額や神戸市内のホテルの稼働率も震災前に戻っていない。有効求人倍率は0.32倍で、生活を支える仕事も厳しい状況が続いている。

(1999年7月17日 神戸新聞)

....被災地支援情報....

続けています!

緊急支援活動

いま現在、パプアニューギニア、ホンジュラス、コロンビアに続いて今年の5月、6月に起きた災害に対して救援を行うことになりました。つきましては、下図を参照下さい。また、これらの救援のご協力を是非お願いいたします。



メキシコ地震

発生時間：99年6月16日午後3時頃
(日本時間17日午前2時頃)

被害状況：死者20名以上
負傷者700名

倒壊家屋7,000棟(現地NGO団体まとめ)

被害地域：オアハカ州を中心とする周辺9つの州で被害

メキシコシティーより約250kmはなれたオアハカ州を震源地とするM6.7の地震が6月16日(日本時間17日午前2時ごろ)発生し、オアハカ州を中心に9つの州に被害を与えた。

メキシコは1985年にも7,000名を越える死者を出した大地震があった。その際、NGOを組織し、また今回の地震以前からKOBEと交流のあった現地NGO団体のリーダーであるクァテモック氏から情報を収集したところ、オアハカ州山間部の小さな村々に被害が集中しているようで、メキシコ政府からの公的な援助が届かないと懸念されている。

神戸では緊急救援実行委員会を立ち上げ、クァテモック氏を通じて現地支援を行っていく。

ペルー水害

発生時間：99年5月22日頃

被害状況：死者44名

被災世帯158,453世帯

被災家屋84,563棟

農作物被害116,326t

被災学校2,224校(カリタスペルーまとめ)

被害地域：ペルー北西部ロレト県イキトス市を中心
に周辺の町で被害

ペルー北東部のロレト県のアマゾン川流域において、5月22日に水害が発生した。日本では一部のマスコミにしか報道されなかつたが、カリタス大阪を通じて現地で救援活動を行っているカリタスペルーより情報を収集したところによると、158,453世帯が被災するという大規模なものだった。

そのため、神戸で実行委員会を立ち上げ、カリタスペルーを通じて現地の支援を行うことになった。また同時にペルーYMCAも現地で委員会を組織し、救援活動を行っているという情報もあり、新たな情報が入り次第、支援を行っていく予定である。

パプア・ニューギニア地震津波

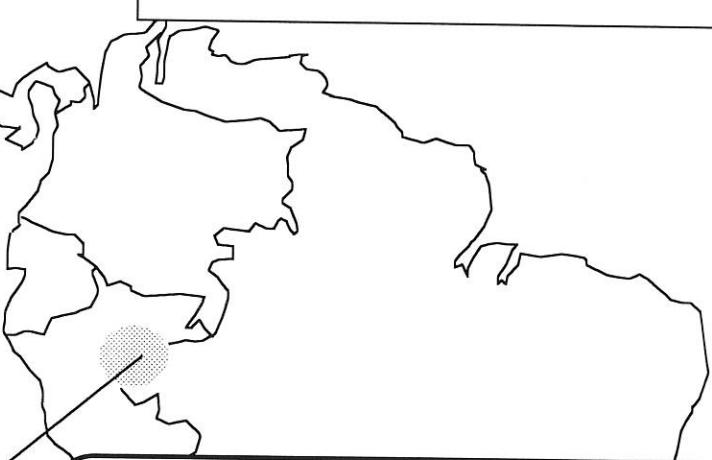
1998年7月17日に発生。災害発生直後と今年初めの2回現地を訪問し、現地のNGOや住民らとの協議の結果、集まつた募金を元に被災した小学校の再建が進められている。

中米ホンジュラスハリケーン被害

1998年11月末に発生。当時現地に留学していた金井優子さんを中心、被災集落の家屋再建などを支援。今年7月より再び金井さんが現地に入って活動を続けている。

南米コロンビア地震

1999年1月25日に発生。現地のNGO、セルビ・ビエンダのケアセンター開設計画を支援。今年8月上旬に、NGO外国人救援ネットの神田さんが現地を訪問している。



「NGO災害救援金」について

今回のように、5つの救援が重なってしまうと、それぞれの支援が不十分になってしまふことも十分に考えられるため、委員会の責任において柔軟に送金ができる仕組みとして「NGO災害救援金」として同時に呼びかけたいと思いますので、各救援活動と合わせてよろしくご支援のほど、お願いいたします。

募金の送り先

郵便振替口座：00970-7-39728

加入者名：阪神大震災地元NGO救援連絡会議
※通信欄に各国の救援活動名、もしくは

「NGO災害救援金」とお書き下さい。

<問合せ>緊急救援実行委員会事務局

(被災地NGO協働センター内 鈴木・細川)
tel:078-685-0068 fax:078-685-0071

6月29日の豪雨による水害救援活動

兵庫区ボランティア災害支援センターより
被災地NGO協働センター

6月29日。梅雨前線の影響で、西日本一帯が豪雨に見舞われました。その日、神戸市兵庫区・長田区に流れる新湊川が豪雨の影響で氾濫し、水害が発生しました。

兵庫区東山町。昨年9月に台風による豪雨の影響で水害が発生し、多くの方が一時避難をすると、被害の大きかった地域です。この東山町が今年もこの豪雨により、またも被害を受けてしまったのです。2度目の被害ということもあり、住民の方のショックも大きなものでした。

翌日、「ぐるうぶ・えん」を拠点に神戸の様々な団体や震災がつなぐ全国ネットワークの協力を得て救援活動を開始し、7月22日までに63件の活動を、のべ315人のボランティアが出動して対応しました。床上・床下の泥出し、室内の片づけ、荷物運び、荒ゴミ出しなどなどを行いました。

水害ボランティアを通して プロジェクト1-2代表 有光るみ

昨年9月に続き、また新湊川が氾濫した。被害のひどかつた東山町、荒田町の方々が避難する荒田小学校は、怒りとやりきれなさと不安でいっぱいだった。ある70代後半の一人暮らしの女性は、心身共に激しいショックを受け、冷や汗が止まらず、言葉もスムーズに出ないほどだった。

そんな状況の中、ぐるうぶ“えん”を拠点にし兵庫区水害ボランティアセンターが立ち上がり、土砂の撤去、畳や家具の運び出しが始まった。私たちの呼びかけに答え集まって下さった多くのボランティアの方々、3日間お手伝いをして下さった三菱重工労働組合の方々に日々、現場からあがってくるニーズに対応していただき、水害から一週間目には、比較的状況は落ち着いてきた。皮肉なことに2回目ということもあり、被災者の方々もお互いに助け合いながら作業したり、ボランティア側も対応が比較的早く、スムーズに行えた結果である。プロジェクト1-2としては、日々のボランティア参加者の手配と、やはり、女性主体の団体の為、ボランティアの方々への昼食・夕食の炊き出しを行った。その炊き出しを手伝ってくれた70歳の女性は「私は現場に行ってお手伝いすることはできへんけど、こうして間接的にでも関わらせていただけるのは状況もわかるし有り難い。同じ町で起つたことやもんね」と言ってくれた。一部を残し、被災した地域は日常を取り戻したかのように見える。しかし、目に見えない困窮した状況はそれぞれにある。そういう方々と困った時に声を出し合える、信頼が存在する関係を築き、継続させていくことを大切に考えていきたい。災害は、そう簡単には終わらないのだから…



(7月4日 神戸新聞より)

鈴木隆太

活動を開始して5日後に兵庫区の北に位置する里山町で豪雨による土砂崩れが起きたという情報が入り、直ちに現地視察を行い、場合によっては活動を行うという体制づくりを取りました。ここで反省する点として、全体の被害の把握が出来ていなかつたということですが、ボランティアセンターを立ち上げた時点で全体の状況を把握しておく必要性があるなど、感じています。

今回の水害は、昨年の水害の際、すぐに対応しなかつたという反省も踏まえて、翌日から対応できたという成果がありました。しかし、それと同時に、先程も述べましたが、全体を把握していくことの重要性が今回、改めて認識させられました。これらの経験を今後の災害に（とはいっても、起きないのが一番望ましいのですが…）活かしていくべきだと思います。

6.29新湊川水害支援を振り返って

ぐるうぶ“えん” 仲江川徹

「一年もたたないうちに2度もなんて！！」「去年よりもひどいわ！」

今回6/30から救援活動に入つて、それぞれのお宅で聞いた声は、こんなのが多かったです。被災者の皆様は、さすがに落胆の色を隠せない感じで、「もう、こんなトコには住みたくない」という声も聞きました。今回は被災者のこんな悲痛にどう応えながらボランティア活動をしていくかというのが私たちの大きな課題でした。が、私たちも2回目というコトもあり、ある程度顔の見える関係ができていたので、話をしながら、被災者の方と一緒に作業をする人、ひたすら床拭いたり作業をしてる人という役割分担が何となくうまい具合に出来ていたと思います。

「あー、去年も来てくれたな、兄ちゃん」とか「私もボランティア登録しどつて」「今回、ボランティアさん対応早かつたね」などなど、温かいオコトバをたくさん頂きました。ま一逆にちとご迷惑をかけたコトも2、3ありました。

私は当日6/29、氾濫している東山町に偶然いたのですが、車を見る見る浮いて流れ、あるお宅の2階では、おじいちゃんがぼう然と水でいっぱいになる道を見ていきました。その光景は今も忘れることが出来ません。地震でつながった人たちとはまた別の新しいかかわり方を今後も出来たらと思っています。

**みなさん、ご協力
ありがとうございました。**

....被災地支援情報....

震災がつなぐ全国ネットワーク



震災から学んだことを活かし、つないでいきたい……そんな思いと支援者の輪から生まれたのが「震災がつなぐ全国ネットワーク」。東北から九州まで、民間の草の根ネットワークをもとに、震災の検証や国内外の災害の救援活動を行っています。

■震災がつなぐ全国ネットワーク総会/定例会

震災がつなぐ全国ネットワーク（以下「震つな」）の仲間が、昨年の水害被災地・高知に集まりました。

震災の神戸、水害の栃木・福島・高知と被災地のその後の経過報告や、「救援物資編」「ボランティア編」に続くKOBEの検証シリーズ第3弾「金編」の編集会議、今後災害が起ったときの対応など、多くの課題を話し合いました。

■「水害発生! どうつくる?」

水害ボランティアセンター」刊行

昨年1998年の夏から秋にかけて、各地で集中豪雨や台風による水害が発生しました。特に福島・栃木・高知では臨時の水害ボランティアセンターが誕生し、多くのボランティアが被災地の復旧支援に携わりました。

この経験をまとめ、次に活かしたい!! と突貫作業で編集に取り組んだのが、この「水害発生! どうつくる? 水害ボランティアセンター」です。水害発生からボランテ

ィアセンター立ち上げ、運営、閉鎖までの流れを分かりやすく解説し、また昨年の福島・栃木・高知の状況をドキュメントタッチでまとめてあります。

まさかこんなに早くこの本が役に立つことになろうとは、その時は思いもしなかったのですが……



KOBE
の検証
シリーズ「発展」

どうつくる? 水害ボランティアセンター

▲「水害発生! どうつくる? 水害ボランティアセンター」A5版76ページ・600円。KOBEの検証シリーズPart1の「物資が来たぞう! 考えたぞう!」、Part2「ボランティアが来たぞう! 考えたぞう!」も好評発売中。問い合わせは被災地NGO協働センターまで

■6月29日、大雨による被害発生!!

6月29日には、梅雨前線の影響で西日本の各地に大雨による被害が発生しました。

神戸市では新湊川が氾濫し、被災地NGO協働センターを中心に「兵庫区ボランティア災害支援センター」を立ち上げて、復旧支援の活動に当たりました(前頁参照)。

また被害の集中した広島県では、土砂崩れや土石流が各地で発生し、広島市と呉市に災害救助法が適用される被害となりました。広島市社協でボランティア本部が開設されたとの一報を受け、震つなメンバー2人が早速西へ向けて旅立ちました。

■呉市水害ボランティアセンター開設

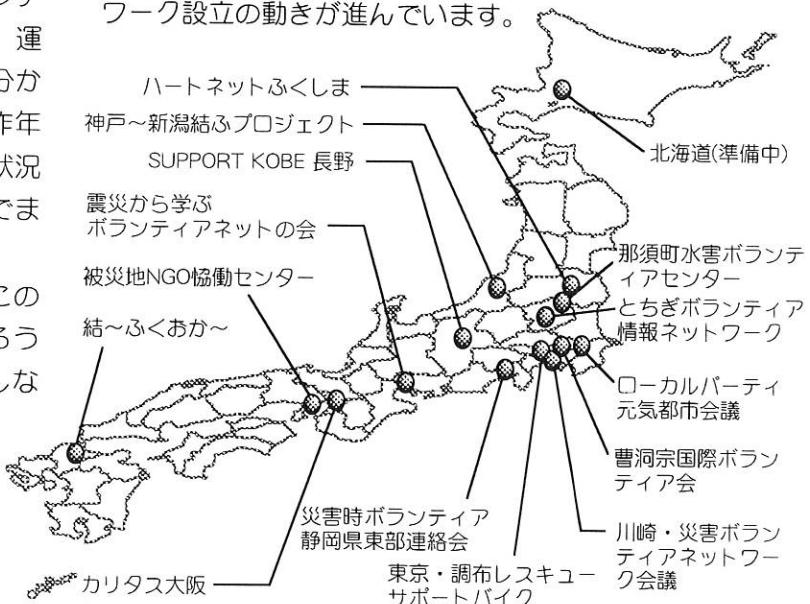
7月3日に現地入りしたのは、昨年の栃木・那須水害で活躍した「とちぎボランティア情報ネットワーク」の矢野さんと、「那須町水害ボランティアセンター」の増田さん。広島・呉と被災地の調査を続け、呉市の水害ボランティアセンターの立ち上げ支援を行ってきました。

昨年いちからボランティアセンターの運営を経験した人材が、その「経験知」を次の被災地へ活かしていく。その後も福島・西宮・名古屋から交代でスタッフを派遣するとともに、ひと・モノ・金・情報の後方支援を行いました。

呉市水害ボランティアセンターは7月23日で閉鎖。その後は市の社会福祉協議会が相談窓口を設けています。

■震災がつなぐ全国ネットワーク参加団体

震災がつなぐ全国ネットワークには7月末現在で下の地図の団体が参加しています。また7月末の大雪で被害の出た北海道でも、現在災害救援のボランティアネットワーク設立の動きが進んでいます。



…被災地支援情報…

1999年度総会の報告 1999年6月22日 センタープラザ西館会議室(神戸・三宮)

去る6月28日に、1999年度被災地NGO協働センター総会が開催されました。

<1999年度運営体制>

- ◎顧問 梁 勝則(阪神高齢者障害者支援ネットワーク)
- ◎代表 村井雅清(くるうぶ・えん)
- ◎事業部長 細川裕子
- ◎監事 石井明美(ゆいまーる神戸)
 笹部(青い空☆KOBE)
- ◎運営委員 池田啓一(都市生活地域復興センター)
 黒田裕子(阪神高齢者障害者支援ネットワーク)
 福永年久(被災地障害者センター)
- ◎会計 福田和昭
- ◎専従スタッフ 鈴木隆太・増島智子
- ◎アルバイト・ボランティアスタッフ 池野 瞳・鹿島年子



出席10団体、委任状39通。

冒頭で議長に黒田さん(阪神高齢者・障害者支援ネットワーク)を選出。

1. 1998年度事業報告案について

鈴木事業部長より事業報告案の説明がなされ、質疑応答が行われました。

◎全会一致で承認されました

2. 1998年度決算案について

福田会計より決算案の説明、有光監事より監査報告がなされました。その後、質疑応答が行われました

◎全会一致で承認されました

3. 1999年度事業方針案について

鈴木事業部長より事業報告案の説明がなされ、質疑応答が行われました。

◎全会一致で承認されました

4. 1999年度予算案について

福田会計より予算案の説明がなされ、質疑応答が行われました。

◎全会一致で承認されました

5. 1998年度運営体制案について

代表については、袖岡さん(阪神大震災子どもを助ける会)より、前年度に引き続き村井雅清が推薦され、承認されました。事業部長については村井代表より細川裕子が推薦され、承認されました。

*その他の役員については左記の運営体制をご参照下さい。

1999年度事業方針

1. 様々な課題における情報の収集と発信

- ア)やりみちの発行
- イ)ホームページの設置

②「灯り事業」全国展開の実施

- ウ)その他

3. 「新しい市民社会の形成」における提言・提案活動

- ア)講演会・研修視察の受入
 - (1)講演会の実施
 - (2)研修・視察の受入
- イ)開発教育セミナーの実施
- ウ)提言・提案活動のためのシンクタンク的機能を形成すべくシステムの確立

4. 特別事業

- ア)生きがい支援事業「まけないぞう」
 - (1)「まけないぞう」の製作・販売の促進
 - (2)「まけないぞう」製作講習会-出前型
 - (3)「まけないぞう」事業の啓発・啓蒙のための「ありがとうキャラバン」実施
 - (4)「ぞう通信。」の発行
- イ)フェリシモ「もっと・ずっと・きっと」プロジェクト

2. 被災地内外のネットワークづくり

- ア)被災地NGO協働センター参加団体に対する相談業務
- イ)被災地内外関係団体とのネットワーク強化と事務局受託による財源確保

(1)被災地内のネットワークづくり

- ①「市民しごとづくり研究会」への参画
- ②「1.17KOBEに"灯り"をともす会」実行委員会への参画

- ③生活復興県民ネット「情報プラザ」運営への参画
- ④市民とNGOの「防災」国際フォーラム実行委員会の事務局受託

- ⑤海外における災害緊急救援委員会の事務局受託
- ⑥「しみん基金・KOBE」への参画

(2)被災地外とのネットワークの形成

- ①「震災がつなぐ全国ネットワーク」への参画と事務局の受託

なお1998年度事業報告・決算および1999年度事業方針・予算の詳細および当日の議事録の詳細については、センターまでお問い合わせ下さい。必要な方には総会当日の資料をお送りいたします。

被災地NGO協働センター
1998年度決算報告

1998年4月1日～1999年3月31日

1.一般会計

(収入の部)

	予算額	決算額	備考
事業収入	24,000,000	26,876,792	
預託事業収入	600,000	0	
販売収入	300,000	317,720	
寄付金	9,500,000	5,683,911	
助成金	10,460,000	11,282,659 *1	
会費収入	500,000	907,000	
受取利息	-	3,130	
雑収入	-	328	
前期繰越金	7,506,114	7,506,114	
合計	52,866,114	52,577,654	

(支出の部)

	予算額	決算額	備考
<事業費>			*2
1.広報	3,681,680	3,898,518	
2.情報交換	216,000	120,000	
3.生きがい・就労促進事業	25,201,920	27,297,478	
4.コーディネート	2,720,000	2,168,419	
5.ネットワークづくり	1,890,000	2,555,939	
6.フリースペースの設置	360,000	0 *3	
7.その他の事業	-	38,605	
<管理費>	10,980,000	9,141,783	
スタッフ活動費	2,160,000	2,160,000	
事務所賃貸費	2,160,000	2,340,000	
事務所敷金	2,000,000	0 *4	
旅費交通費	840,000	836,060	
機器賃貸費	1,200,000	1,196,474	
電話代	1,440,000	301,715	
水道光熱費	480,000	241,964	
車両維持費	700,000	760,843	
その他事務経費	-	1,304,727	
<その他>			
予備費	310,400	474,888	
当期支出合計	45,360,000	45,695,630	
次期繰越金	7,506,114	6,882,024	
合計	52,866,114	52,577,654	

2.特別会計

(株)フェリシモ もっと・ずっと・きっと プロジェクト

(収入の部)

	決算額	備考
自己資金(プロジェクト参加団体)より	10,700,996	
(株)フェリシモより助成金	30,000,000	
前年度繰越金	2,640,733	

(支出の部)

	決算額	備考
総事業費	37,707,187	
(株)フェリシモに返却	2,640,733	
次年度繰越金	2,993,809	

<備考>

*1 阪神・淡路コミュニティ基金より9,699,344円、(株)フェリシモ「もっと・ずっと・きっと」プロジェクトより1,383,315円、(財)こうべ市民福祉振興協会より200,000円

*2 各事業費にはスタッフ活動費を含む

*3 事業実施せず

*4 前年度決算で事務所移転準備費として処理

被災地NGO協働センター
1999年度予算

1999年4月1日～2000年3月31日

1.一般会計

(収入の部)

	予算額	備考
会費収入	500,000	
事業収入	2,570,000 *1	
預託事業費	2,400,000	
寄付金	3,000,000	
助成金収入	5,000,000 *2	
前年度繰越	6,882,024	

(支出の部)

	予算額	備考
<事業費>		*3
1.情報の収集と発信	1,872,000	
2.ネットワークづくり	4,240,000	
3.提言・提案活動	2,108,000	
<管理費>	7,044,000	
スタッフ活動費	2,160,000	
事務所賃貸費	1,440,000	
旅費交通費	840,000	
車両運用費	240,000	
電話代	780,000	
印刷費	840,000	
その他事務経費	744,000	
<その他>		
予備費	300,000	
当期支出合計	15,564,000	
次期繰越金	4,788,024	
合計	20,352,024	

2.特別会計

まけないぞう事業

(収入の部)

	予算額	備考
事業収入	19,200,000	
寄付金	1,200,000	
助成金収入	1,000,000	

(支出の部)

	予算額	備考
<事業費>		*4
1.ぞう製作・販売の促進	13,060,000	
2.ぞう製作講習会	96,000	
3.ありがとうキャラバン実施	1,800,000	
4.ぞう通信の発行	384,000	
<管理費>	4,240,000	
スタッフ活動費	2,160,000	
事務所賃貸費	1,320,000	
旅費交通費	180,000	
その他事務経費	180,000	
車両維持費	400,000	
<一般会計へ>	1,820,000	

<備考>

*1 まけないぞう事業からの収入も含む

*2 日本財団より

*3 *4 一般会計・特別会計とも事業費はスタッフ活動費を含む

被災地支援情報

■被災地NGO協働センター交換ページ■No.2

被災地障害者センター どんなとこう?



- 被災地NGO協働センター『やりみち』と■
- 被災地障害者センター『障害者による復活・■
- 救援活動』の通信での交換ページ ■

被災地障害者センターは、被災地NGO協働センターの加盟団体のひとつです。私たちは、震災直後の2月2日、地域の障害者とその関係者の救援と復活を目的に発足しました。被災地の43障害者グループと連携し、全国からのほんとうに力強い支援によって活動してきました。

『やりみち』の前号から交換ページを作り、互いの読者に多様な情報を送りできればと、このページが始まりました。

イベントの宣伝だけじゃなく「被災地障害者センターってな~に?」という疑問に、お答えしたいと今回のページです。

■障害者市民活動のスタイルをめざす■



震災から4年半がたとうとしている今、私たちの活動の基本方針は次のようなものです。

- ① 地域に根ざした継続的な活動を行い、障害者市民活動のスタイルをめざす。
- ② 草の根のネットワークを大切にし、「顔の見える関係」を基本にする。
- ③ 障害者発の情報発信をしっかり行う。
- ④ 市民に開かれ、共感を生み、参加できるいろんな事業を作り出す。

私たちは障害者の権利の実現を活動の柱にしています。そして、全国からの支援、地域の当事者や協力者によって新しい活動を作ってきたのですから、継続発展させるための基盤を作り、みんなに新しいステージを発信したいと思っています。NPO法人設立もそのひとつです。

(次号に続く)

被災地障害者センターの活動

(1998年度実績)

①生活支援コーディネイト

- ・生活介助=64.3件/月平均
- ・定期訪問・連絡・

緊急時の対応=7.5件/月平均

- ・ボランティア講座の開催=4講座/年

②移送サービス=18.5回/月平均

- ・フェリシモプロジェクトへの参加

③権利擁護活動=11.3件/月平均

④小規模作業所等の体力アッププロジェクト(ゆめ風プロジェクト)

- ・福祉縁日の開催/情報発信/学習会
- ・職員研修、メンバー交流合宿の開催
- ・「ギフトセット」共同販売

⑤交流の場づくり

- ・たまり場(毎週木曜日)
- ・レクレーションの開催=4回/年



⑥社会参加活動の支援

- ・ピープルファースト兵庫の集い(知的障害当事者活動)の支援

- ・バリアフリー社会を実現する会の支援

⑦通信の発行=9.500部/毎月

⑧グッズ販売=百番目のTシャツのプリントグッズを販売して資金づくり

⑨その他=被災地NGO協働センターへの加盟、『ゆめ・風』基金との共同、『しみん基金・K O B E』に理事を出すなど関係団体と協力しています。

被災地障害者センターの“すがた”

(1999年6月現在)

■所在地 〒653-0805

神戸市長田区片山町2-17-9

T 078-642-0142 / F 078-642-0942

□長田神社の山側。地主さんの好意で山手に移ったが、ちょっと恥ずかしい。ホームページ、Eメールは準備中。

■職員は6人の専従と1人のアルバイト。

20才代が主力。マンパワーこそ勝負の活動。だから、応援求む。

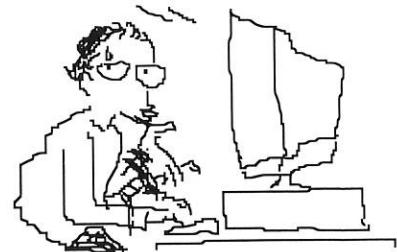
■登録ボランティアは約150名。

■年間予算 約3.200万円

被災地NGO協働センターに ホームページ誕生!! <http://www.pure.co.jp/~ngo/>

ついにというか、ようやくというか、この被災地NGO協働センターもホームページを開設することになりました。右上の「<http://www.pure.co.jp/~ngo/>」というのが、ホームページのアドレスです。内容は、今のところですが、被災地NGO協働センターの活動の紹介や、まけないぞう運動の案内、今年に入つてからの「じゅりみち」のダイジェスト版……などなど。

やつと人様にお見せできる体裁を整えたばかりですが、ホームページの方では、国内外の災害の緊急救援活動など、即時性の高い情報を随時掲載していくようになります。もちろんこの「じゅりみち」もこれまで通り発行していきます。紙のメディアには紙の良さがあると思っていますので、こつちもホームページに負けないよう頑張つてつくつていきます。そんなわけで、今後ともよろしくお願いします。



ついにパソコンも打てるようになつた村井くん(ホームページはつくつません)

ご入会ありがとうございました

(敬称略・'99年4月21日~7月16日)

- 【個人会員】山本 亜紀子,滝川 裕康,旦保 哲夫,神田 靖乃,
鈴木 和博,中島 俊二,大河内 隆敬,中尾 結樹,三星 昭宏,
河村 泰至,寺口 瑞生,小林 明子
- 【団体会員】元気都市会議,アヴァンティ一浜松,
日本ソムリエスクール
- 【賛助個人会員】大谷 順子,南 康二,石丸 由紀子,平松 孝子,
南谷 洋子,小川原 美佐子
- 【賛助団体会員】(株)キューネットコミュニケーションズ,
本塙村立滝野中学校生徒会,(宗)真如苑,
- 【自由選択会員】高山忠士

新規会員募集 & 継続会費納入のお願い

★団体会員	年会費 ¥10,000×1口以上
★個人会員	年会費 ¥3,000×1口以上
☆団体賛助会員	年会費 ¥10,000×1口以上
☆個人賛助会員	年会費 ¥3,000×1口以上
☆自由選択会員	任意の額

新規入会・継続会費については、同封の入会のお願い・申込書をご参照下さい。ご不明な点については、お気軽にセンターまでお問合下さい。

センターの動き 5月~7月

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 5/ 3(月) 大阪・中之島まつり(ホンジュラス救援PR) | 6/19(土) 映画「ゼノ」上映会(しみん基金・KOBEのPR) |
| 5/ 5(水) 甲子園ラテンフェスタ(ホンジュラス救援PR) | 6/22(火) 1999年度総会/ホンジュラス救援活動報告会 |
| 5/ 7(金) しみん仕事づくり研究会 | 6/24(木) センター会議 |
| 5/ 8(土) こうべ地球村フェスティバル(神戸・三宮) | 6/25(金) NPO部会 |
| 5/11(火) 「しみん基金・KOBE」引っ越し手伝い | 6/28(月) 市民とNGOの「防災」国際フォーラム実行委 |
| 5/12(水) 県民ネット情報プラザ意見交流会・運営委員会 | 6/29(火) 村井くん、市民活動広場/新湊川氾濫 |
| 5/13(木) 「しみん基金・KOBE」記者発表 | 6/30(水) 「兵庫区ボランティア災害支援センター」設置 |
| 5/14(金) 緊急救援活動研究会/甲府・バオの会講習(山梨) | 7/ 2(金) 第2回「ウォーカー準備会 |
| 5/15(土) 水害復旧支援プロジェクト「たんボラ」(福島) | 7/ 4(日) コミュニティビジネス助成申請公開審査 |
| 5/16(日) 川越JCぞう販売(埼玉) | 7/ 5(月) 「しみん基金・KOBE」発起人会 |
| 5/18(火) センター会議 | 7/ 6(火) 緊急救援活動研究会 |
| 5/22(土) 同和研究会教職員研修受入 | 「吳市水害ボランティアセンター」設置(広島県) |
| 5/24(月) センター会議 | 7/10(土) 県民ネット情報プラザ意見交流会・運営委員会 |
| 5/28(金) 高知市立江の口小学校ぞう講演(高知) | 7/22(木) 「ありがとうキヤラバン」九州編Part1スタート |
| 5/29(土)~30(日) 震災がつなぐ全国ネットワーク総会(高知) | 7/11(日) 震災がつなぐ全国ネットワーク役員会(東京) |
| 5/30(日) フェスタin湊川ぞう実演・販売(神戸・兵庫区) | 7/12(月) 「しみん基金・KOBE」設立総会 |
| 6/ 3(木) センター会議 | 7/14(水) しみん仕事づくり研究会 |
| 6/ 7(月) フエリシモプロジェクト事例検討会 | 7/16(金) NPO部会/全青連研修受入(広島・吳)
NPO雇用についての緊急集会 |
| 6/10(木) センター会議 | 7/19(月) センター会議/センター企画委員会 |
| 6/11(金) ぞうミーティング/土岐市立泉中学校(岐阜)研修受入 | 7/20(火) インターアクトぞう講演会(名古屋) |
| 6/13(日) 伊賀広域震災ボランティアフェスティバルぞう販売(三重) | 7/21(水) センター会議/海文堂書店ライブフォーラム |
| 6/14(月) 「しみん基金・KOBE」発起人会 | 7/22(木) 「ありがとうキヤラバン」九州編Part2スタート |
| 6/15(火) 介護保険灯についてのスタッフ勉強会 | 7/24(土) NPO部会/フォーラム実行委 |
| 6/16(木) 市民活動広場全体会 | 7/28(水) 117灯りをともす会/『しみん基金・KOBE』理事会 |
| 6/17(木) センター会議/フレッシュ・ジ・エク事例検討会 | 7/31(金)~8/1(日) 成蹊大田中ゼミ(東京)研修受入 |
| 6/18(金) 大阪松原高校研修受入 | |

♥おかげさまで第14号！！♥

「まけないぞう・ありがとうキャラバン」九州編が終了しました。熊本→福岡→佐賀→鹿児島→宮崎と、九州各地を約1ヶ月に渡ってキャンペーンしてきました。
みなさん、ご協力ありがとうございました。

まけないぞう 通信。

発行所：神戸市中央区東川崎町7-2-6 TEL 650-0044
被災地NGO協働センター

第14号 1999.8.12



「まけないぞう」ありがとうキャラバン

このキャラバンでもまた、新しい人のつながりが生まれています。前半は主に学校関係にお邪魔しましたが、どこへ行ってもまっすぐ、キラキラしている顔がそこにはありました。

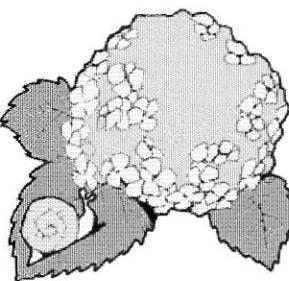
5年目の今、こうして若い人たちが積極的に神戸のことを想つて下さることは大変うれしく思います。

作り手である被災者にこのことを報告すると、「ほんとありがたいよねえ」と喜んでおられました。キャラバン中にはあるおじいちゃんが「こんな機会がないと会えへんな」とおっしゃってくれました。

初めてまして、私が今回の『まけないゾウ』のタオル収集運動のきかく、呼びかけをさせていただきました。中に入っているプリントを作つて呼びかけたり全校集会などで呼びかけましたが、始めての仕事で、なかなかみんなに伝えることがむずかしく、タオルの数が少なくてすみません。でもこれだけでも伝わったことをうれしく思っています。私にも出来ることがあるんだなあーと思いました。あまり、力にならないと思いますが今回の運動で少し自信がついたつもりです。もつともつと私に出来ることありませんか？ こんな私でも力になるのであれば、もつともつとお手伝いしたいです。本当は自分の手で持つて行きたかったのですが…… 無理なのでお手紙にしました。こうして集めたこのタオルが、カワイイゾウに生まれ変わるのが楽しみです。それでは、本当に暑い日が続きますが、みなさん体に気をつけてがんばつて下さい。

ま
忘
却
な
い
ぞ
う
あ
じ
な
ど
に
ぞ
う
花
も

支
援
者
か
ら
の
メ
ッ
セ
ー
ジ



(大阪府在住・女性)

九州編

7月24日
福岡・生と死を考える会

7月25日
結~ふくあか~

7月26日
NHK福岡放送局

7月24日
鳥栖・地域市民の会

7月26日
柳川・長善寺

7月11日
熊本・コミュニティネットワーク

7月13日
本渡・天草高校

7月12日
八代・八代高校

7月30日
鹿児島・シティFM
(FMフレッシュ)

8月7日
宮崎・ティアラーム
8月8日
宮崎・わいばうし
コンサート

8月3日
志布志・伊藤汽船
社員食堂

タオルを寄せて下さった
熊本県立荒尾高校の生徒の方より

支援者からのメッセージ



新品のタオル・集めています



今、まけないぞうのタオルが不足しておりますので、こちらの方もご協力下さい。

最近の話題から

震災から4年半たつた神戸市では、5,000人を対象に「市民意識調査」を行いました。住宅に関しては9割が震災前の状況に戻っているとありました。しかし、一方で就業状況は回復していないと回答した人が3~4割にものぼっています。また復興住宅の65歳以上の高齢者の割合が3~4割に達し、再三にわたって暮らしの環境が変わり、孤独感で引きこもる高齢者もいて、新たなコミュニティづくりが課題になっています。

そんな中でまけないぞうの作り手は、この活動を通して、新しい人の輪を広げ、友だちが増えてよかつたと話している人もいます。また一人で淋しいときも、このぞうを見ていると気分が和み、辛いこと、苦しいことも忘れてしまうと……

山梨県の甲府市で4月に結成された「パオの会」はすくすく育っています。

参加者は約30名で、今までにも様々なボランティア活動をされている方々が男女問わずパオ作りをされています。男性で裁縫が苦手な人でも、材料の準備をしたり、会計を担当したり、歌を作ってくれたり、それぞれの得意分野で会に関わり、「こうふ・パオの会」が運営されています。

そこで皆さんから寄せられたメッセージをすこしご紹介いたします。

私の長男は、5年前、神戸大学に入り、阪神・淡路大震災に遭いました。地方の方にいろいろお世話になり、今年3月やっと卒業が出来ました。何かお礼をしなくてはと思っている時にバオの活動を知り、少しでもお手伝いできたらと思い参加しました。月に2回ですが、來るのがとても楽しみです。

友の悩みを我が悩みとしてたえず
考え実行前進していきたいと思う。

月2回みんなで「出来の悪い児程本当に可愛いね」と言いながら、楽しくパンを作っている時が私にとって本当に楽しい一時ですが、今後も頑張って沢山の兄弟・姉妹を増やして行きたいです。

昨年秋、いまもなお不自由な生活をされている神戸被災地の皆さんを支援する「まけないぞう」の販売をお手伝いしました。さらに応援していきたい思いが実り、会が誕生しました。ひと針ひと針と縫い上げて可愛い子象のパオが完成したときの喜びは格別です。この活動の輪をさらに広げて行きたいと思います。

副代表 上野房子

阪神大震災から4年あまり。その災害を忘れかけていた昨年、1本のタオル運動でタオルを集め、そして変身して里帰りした「まけないぞう」の販売に協力して、被災地の皆さんのがとても身近なものになった。

甲府市のハートフェスタで出会った小象は被災地NGO協働センターと甲府市ボランティアセンターとの間でとんとんと話がまとまり、甲府からも生まれることになった。VC(ボランティアセンター)野田コーディネーターの熱心な呼び掛けで、いくつかのボランティアグループからメンバーが集まり「こうふ・パオの会」は発足した。

男性の「針仕事」という珍しさはあるが、男女平等・機会均等という点ではじつに現代的かつ理想的なグループだと自負している。毎月2回の活動日には、会員一同「おうえんするぞう」を合言葉に、神戸の皆さんに思いを馳せながら「象」作りを楽しんでいる。

こうふ・パオの会 代表 市川孝次

パオ
コーナー



タオルいっぽん
…こうふ・パオの会応援歌…
詞・市川 孝次

三		
二		
タオル一本	ちくちく縫つて	端をまるめて
黒いおめめに	お鼻をつくり	黒いおめめに
ほーらできだぞ	かわいいリボン	「まけないぞう」
タオル半分	ちくちく縫つて	タオル一本
お鼻はすこし	小さいけれど	ちくちく縫つて
黒いおめめに	かわいいリボン	お鼻をまるめて
子象のパオも	「おうえんするわ」	黒いおめめに
外はまだまだ	寒さがつるる	ほーらできだぞ
心寄せ合い	励まし合つて	タオル一本
春の来るのを	信じて行こう	ちくちく縫つて
みんないつしょに	「がんばるわー」	お鼻をつくり